

# 横浜にオペラハウスは必要か？

## 視察報告

現在、横浜市ではオペラ・バレエ専門劇場設置の議論がされています。オペラハウスは3面、4面、そして高さ30mと非常に大きなステージを必要とされる一方、客席は生声が届く範囲に限定されます。オーケストラピットによって削られ、1,800~2,000席程と座席数にも限りがあります。興行として採算性は非常に難しいのが実態です。建物の建築費に200~300億円かかり、毎年の運営費として10~20億円の税金投入が必要とも言われ、さらに数年ごとに補修工事が必要となる大変お金がかかる施設です。

本格的な劇場設置の是非の議論を深める為、会派として複数の施設を視察しました。



## びわ湖ホール・愛知芸術文化センター視察(11/28)

びわ湖ホールの建設費は300億円を超え、年間の指定管理料は10億円。21年経ち、追加修繕費に70億円をかけています。一方、愛知芸術文化センターは、平成4年に628億円で建設。年間予算は娯楽施設だけで20億円程。年間の指定管理料は10億円です。25年経ち、改修工事に3年間で116億円を投資しています。両方の施設とも、バブル時に当時の県知事の鶴の一声で建設が決まり、贅を尽くして建設されています。



## よこすか芸術劇場 視察(12/9)

日本軍の保養施設が米軍に接収された後、昭和58年に汐入再開発に伴い335億円(土地・建物の劇場部分)で整備されました。年間運営費は8.1億円。指定管理料は4億円で、公益財団法人横須賀芸術文化財団が運営を行っています。

客席は馬蹄形の5階建て、1,806席。横須賀では最大で、オペラだけでなく、コンサート・歌舞伎・バレエ・講演会・卒業式など多用途に使われるホールです。

25周年と時間が経つものの、豪華なつくりとなっており、お金がかかっている印象でした。



## まとめ

本格的な劇場建設は「オペラやバレエという文化にどの程度の市民負担(税金投入)が理解されるか」です。また、採算については建設の決断前に詳細に検討する必要があります。建ってしまうと、それを上手く使うしかなく、採算の検討がおざなりになる可能性がある、という事が良くわかりました。今回の視察を、今後の横浜での議論に活かして参ります。

## 10/25 勉強会報告

プロセス(行為)依存症専門の入寮型施設の一般社団法人

## 「ブルースター横浜」



アルコール、ギャンブル依存を経験した女性にも出席いただき、依存症によりお金欲しさに窃盗など犯罪に至った経緯、愛する人との信頼関係の喪失、その間の心の闇や生きづらさなど当事者の生の心の痛む話を伺いました。現在は自制できているが、100%の完治の保証はなく、依存症の自助グループにいまでも通っているとのことでした。

依存症には行為依存、物質依存、人間関係依存など様々な形があり、人間関係の再構築や社会復帰までの道のりは容易でないということでした。誰もが日常においても何かのきっかけで依存に陥る可能性もあり、自身ではブレーキが踏めず、トラブル、犯罪に結びつく可能性があるということでした。

簡単に対策を講じることはできません。私たちは依存に陥る現実と怖さをもっと知る必要があるとのことでした。



## 10/25 ヒアリング報告

全国ひきこもり家族会連合会のKHJ横浜支部

## 「横浜ばらの会」

ひきこもりつながる・かんがえる  
神奈川ネットワーク

ひきこもり8050問題(社会的孤立)に対応するため40歳以上も利用しやすい制度について、ひきこもり相談窓口の強化、指導監督体制の整備、断らない途絶えさせない相談支援と相談員の要請についてなど、要望の概要を伺いながら意見交換しました。

取材で同席されたフリーライターからも、ひきこもり家族の弱みにつけこんだブラックビジネスの実態や何のプログラムもなく軟禁状態にあって、過酷な労働を強い、さらには多額な金銭を家族に要求するなど看過できない現状もあることを伺いました。

このような問題も意識しながら、支援体制について積極的に取り組みを進めていきます。



## 議員の活動チェックはこちらから!

会派では横浜市の重要課題にいち早く取り組めるようにヒアリング、勉強会、視察を随時行っています。会派所属議員の日々の活動報告はこちらからご覧いただけます。

